

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100190		
法人名	特定非営利活動法人いわのや		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	群馬県安中市大谷1088-2		
自己評価作成日	令和3年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、食事の下ごしらえや掃除、洗濯物干しなど、利用者様と職員で協力しながら生活しています。また、一人ひとりに寄り添い、自分らしい暮らしや自信を持って過ごせる場面が増えるよう、全職員と考えながら支援をしています。経営者の自宅を改修したホームは、山村の自然豊かな場所にあり、庭先には草花やメダカ、猫がおり、利用者様は好きな時に庭先へ出て日向ぼっこなどをしている姿が日常風景です。元々、経営者が暮らしている事からも地域に根付いており、運営推進会議を通してホームの事を理解してくださる方も増え、散歩や日々の生活の中で気軽に声をかけていただく機会が増えました。また、現在は、新型コロナの影響から外出行事やボランティアの方々の訪問は制限させていただいていますが、施設内で季節の行事や楽しみ事を設けてメリハリのある生活作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅時と同様の生活の継続を支援している。日常生活の中で、元気があった頃にはやっていた調理や包丁研ぎ、縫物、畑仕事等、利用者にとって得意なこと、好きなことを認知症であっても今ある力で続けることは、利用者の誇りある暮らしに繋がり、理念にある「人間的な喜びのある生活」を具現化しているといえる。また、コロナ禍にあっても利用者と家族が窓越しに面会し、利用者の実際の姿を見て、安全に生活していることを確認することで家族に安心感と満足感を与え、不安を取り除く支援をしている。面会が難しい状況にあっても、面会方法やメール、LINE等で意思の疎通を図ろうとする取り組みは、コロナ禍にある利用者、家族の気持ちに寄り添い、関係性が途切れないよう工夫された支援であり、事業所と職員の介護者としての熱意がうかがえる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての新たな理念は作成していないが、地域の中で利用者様1人ひとりが、かけがえのない存在であると考え、その人らしく生きていけるよう支援している。職員会議等で理念の共有を図っている。	理念にある「人間的な喜びのある生活」の実現を目指し、管理者の指導の下、職員は日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で積極的な地域との交流は自粛しているが、散歩時には気軽に挨拶を交わしたり、季節の野菜などをいただくこともある。	コロナ禍ではボランティア等の慰問を遠慮してもらっている。地域との関係性は良く、散歩の時に声をかけてもらい、挨拶を交わしている。利用者が一人で外出した時は知らせてもらったこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口としての研修を終了し、玄関にステッカーを掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染拡大予防の観点から、今年度の会議開催はできていないが、状況をみながらの開催や外部の方々への書面での報告をしていきたいと考えている。	コロナ禍の状況を踏まえ、「市の担当職員だけの開催でも構わない」と助言もあったが、運営推進会議は1年間開催していない。	運営推進会議を书面開催とし、議事録を家族、行政等関係者に郵送し、事業所の状況を伝えることを検討してみたいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、何かあれば管理者が連絡や相談をしている。また、介護保険の申請代行や認定調査時の立会いをしている。	市より新型コロナ感染症に関する情報がメールで届いている。市・県への報告や相談は管理者が担当し、連携を図っている。また、介護保険の申請代行や認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束に関する指針を策定し、職員への周知徹底と年2回の研修会を行っている。 ・身体拘束廃止権利擁護委員会を設けて毎月職員会議等で話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は開錠している。他の拘束はない。身体拘束権利擁護委員会でスピーチロックやネグレクトについて話し合い、毎月の職員会議でも身体拘束について勉強会を開き、身体拘束をしないケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者様、一人ひとりをかけがえのない大切な存在であると考えており、折に触れ“言葉使い”等においても指導に努めている。・今後、関連する研修(内部・外部)に職員が参加し学ぶ機会を持てるよう計画を立てます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業を活用されている利用者様が数名いる。関連する研修等があった場合には、参加し理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者様やご家族に不安がないように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見相や各店至に苦情相談の貼り紙をしている。・利用者様から意見や要望等がないか、日常の会話から伺っている。・コロナ禍であり、メールやLINE、通信物等も利用して、ご家族から意見や要望を取り入れている。	家族からは電話やメール、LINEで意見や要望を聞き、介護計画についても話をしている。利用者からは日常的に意見や要望を聞き、その内容を記録し、職員間で共有しケアや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、意見や提案がないか聞く機会を設け、対応についての相談や業務の改善等に努めている。また、職員の働き方について希望に沿えるようにしている。	実際に職員が顔を合わせ、言葉を交わすことを大切にし、職員会議を毎月最終日曜日の夜に開いている。新人もベテランも同様に意見を出し合い、働き方も職員の希望に沿った勤務体制にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・休日の要望をほぼ全て受け入れ、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月1回、職員会議時等に勉強会を行っている。会議欠席の職員には、資料の配布や回覧を行い内容を共有している。・今後は、オンラインを含めた外部の研修にも参加する機会をもてるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・機会があれば同業者との交流を通じ、サービスの質の向上を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・心配事、不安な事、要望等がないかをよく聴き、また本人の様子や状態、周囲からの情報も含めて考え、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談から利用に至るまでご家族等とよく話し、不安な事、要望等を聴き、受け止めるよう努めている。・特に入居されて間もないうちは、電話やメール等で状況を伝えたり、要望等を聞くなど不安がないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じた対応に努めている。・その方にあったケアプランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に利用者様から学ぶ立場にあり、様々な生活の場面でそれを大切にしている。・毎日の家事活動は利用者様と共に行い、そこから学ぶものはとても多く、職員との支えあいの関係の一つになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者様に対する情報交換を積極的に行い、共に支えあう関係作りに努力している。・可能な範囲での医療受診時の付き添いの依頼やたまには家に帰ってみるなど。・状況に応じてご家族が電話対応等で協力して下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により、外出や面会についての制限がある中だが、ご家族等と窓越しでの面会や今までの習慣や好きな事などが継続的にできるよう努めている。	家族とは窓越しで面会をしたり、マスクをして外で会う等関係性の継続に努めている。また、持ち物、経験、習慣等これまでの生活をそのまま持ち込んでもらう馴染みの生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・良い関係を築けそうな方同士の席を近くにしてみたり、会話の橋渡し役を行ったり、生活する仲間として関係性を保てるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居されても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じ、本人やご家族の経過をフォローしていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で利用者様から自然に意向や思いが聞き取れるよう意識している。・ケアプラン作成時には、改めて思いや暮らし方の希望、意向などを聴いている。・困難な場合は本人本位に検討している。	利用者は全員自分の気持ちを自ら表現できるので日常会話を通して、利用者の意向や思いを把握することに努め、管理者、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用等についての把握に努めている。・本人及び家族、友人、知人、サービス利用先施設等からの情報を収集して個別に記録、管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの総合的な状態を把握できるよう、職員それぞれが観察し、記録や申し送りにて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・サービス担当者会議では本人、ご家族、関係者等で意見を出し合い、それらを反映した個人に応じた細かな介護計画を作成している。・3ヵ月毎の計画書の見直しと月1回モニタリングの実施	毎月、職員会議の中でモニタリングを実施し、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。その際サービス担当者会議を開き、現状に即し、その人らしい生活が実現できる介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で気になった事柄や本人の言葉は、個別記録に記入し確認し合い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。・日々の記録等からアセスメントし実践や介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様の状況の変化やご家族の希望等に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・新型コロナの影響により、介護相談員の訪問や外部の方を招いての行事等は自粛しているが、施設内でのレクリエーション等で楽しく過ごせるような支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・納得が得られたかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。・希望により、訪問歯科診療を受けたり、ご家族付き添いにより、かかりつけ医を受診される方もいる。	入居時に、かかりつけ医の選択ができることを説明している。現在は全員が協力医にかかり、専門医に家族と受診する利用者もいる。歯科は必要に応じて訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・現在は、看護有資格者は在職しておらず、訪問看護サービスの利用もない。・主治医からは、利用者様の状態の変化に応じて、いつでも電話やメール等で相談や指導が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・本人の体調を一番に考えた上で、病院関係者やご家族等と話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期に向けた指針を作成し、本人、ご家族から同意を得て職員間で共有している。	重度化、終末期に向けた指針があり、これまでも家族の希望による看取りの事例がある。利用者の状態を段階に応じて話し合い、協力医からも指導を受け、連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急時の対応についてのマニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災計画を立て年2回火災想定避難訓練や消防署立ち会い(通年は)の避難訓練の実施(土砂災害を想定した避難訓練1回を含む)。・自主防災訓練の実施、防災チェック(備蓄品等)、避難訓練時には、地域の方の協力がある(通年は)。・災害時マニュアルを掲示し、全職員に説明	現在は消防署の立会いのない避難訓練を実施している。土砂災害の危険地域であることから、地域の災害時緊急避難所も確認している。事業所独自の避難場所の必要性を感じ、検討している。	いざという時に利用者、職員の生命を守る為、毎月自主訓練を実施し、避難技術を習得する為の取り組みをしてみたいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの人格を尊重しながら、プライドを傷つけない言葉かけや配慮に努めている。 ・利用者様の状態について、プライバシーが守れるよう職員間のみでわかるインシヤルを利用して申し送りや記録をしている。	利用者のプライドを損ねないよう、命令や指示をする口調での言葉かけをしない配慮と、利用者の話には真摯に耳を傾け、信頼関係を築くことを心がけている。異性介助の際も配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常的な会話の中から、思いや希望を汲み取るよう努め、何気ない事でも自己決定していただけるような聞き方を心がけている。 ・時には好きな飲み物を選択できる日を設けるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・いつでも好きな時に庭先へ出たり、散歩等で歩かれる方にはさり気なく寄り添っている。また、居室で過ごす事が好きな方もおり、それも大切にしている。余暇活動等も本人に確認しながら行い、その人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日々の身だしなみに配慮し、男性では、髭剃りのセッティングや支援、女性では、専用の化粧水や乳液等を使用する方もおり支援している。 ・2カ月に1度、馴染みの美容師の訪問があり、毛染めをされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りでは、野菜の皮むきや盛り付け、包丁研ぎ、片付けなど、できる事は皆で協力している。 ・毎日のメニューを見える所に掲示している。 ・個々の状態や好みに合わせた食事を提供している。 ・毎日、検食者が一緒に食事をしている。 ・フキや筍など季節の野菜での料理と一緒に	朝食、昼食は地元の野菜や生協の食材で手作りの食事を提供し、夕食は配食を利用している。男性利用者も味付けや包丁研ぎで食事に関わっている。家族の要望で体重増加気味の利用者の摂取量の配慮もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・大まかな栄養バランスなどを参考にしながら献立作りをしている。また全員の毎食の食事量、水分量も記録している。 ・糖尿病や腎臓が悪い方の食事にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きの声掛け、見守り。その方の状態によっては一部介助により、清潔の保持に努めている。 ・訪問歯科診療では、医師や歯科衛生士のアドバイスも参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレ確認表に記録することで全員の排泄パターンの把握に努め、適宜トイレへの声かけや誘導支援を行っている。・それぞれの状態に応じ、声かけや誘導の仕方について職員会議等で話し合い支援を行っている。	立位が保てない利用者以外は日中、夜間もトイレで排泄をする為、トイレ確認表を基に誘導をしている。利用者の状態を段階的に見守りながら、おむつ、布パンツと利用者にあった対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・体操等で体を動かす工夫や、水分の勧め、利用者様の状態によっては主治医より下剤等を処方していただき、排便記録をつけて観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴日を設けているが、希望があれば入浴日以外でも入浴できるようポスターにて掲示や声かけをしている。また、個々の状態に応じて清拭、ベッド上での洗髪等の支援をしている。	入浴は週2回実施している。朝、入浴の声かけをし、希望があれば実施している。車いす、立位が保てない利用者であってもシャワー浴・ベッド上での洗髪・全清拭、髭剃り等を希望に沿って実施している。	入浴が連日になることがあっても、入浴はいつでもできるといった情報を提供し、利用者を選択の機会を設ける取り組みをしてみたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて休息を勧めたり、夜間に於いては寝る前に話を聴いたり、不眠がちな方には主治医と相談しながら安定剤の支援などもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・間違えのないよう一人ずつ確認してから服薬。内容については個人の医療ノートに記録、変更があった際には日誌の申し送り欄に記入し職員間で共有。・症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その時々言葉や生活歴なども踏まえ、役割作り(料理、庭掃き、包丁研ぎ、行事等での挨拶等々)や気晴らしの支援(カラオケ、ノンアルコールビール飲み放題、散歩、外気浴等々)に努めている。・ぬいぐるみ等を可愛がって頂く等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・新型コロナの影響により、外出行事等は困難だが、いつでも気が向いた時に庭先に出て外気浴をしたり、草花やメダカの様子をみたりされている。また、車に乗ったままドライブする事もある。	コロナ禍の現在は避難訓練後にドライブ(車中のみ)に出かけたり、途中コンビニに立ち寄り(職員のみ)、馴染みの美容院に出かけている。外出に代わるイベントを実施し、毎週木曜日にはカラオケを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少ない金額ではあるが、お金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様の希望時に電話をされる方もいる。 ・事務的な用事でご家族への送付物がある際、手紙を入れますか？と時々聞いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間では、居心地良く過ごせるよう家庭的な雰囲気作りや花や制作物など季節感を採り入れて工夫している。 ・利用者様にとって不快な音や光りなどが無いよう配慮している。	生活臭については1~2時間おきに共用空間やトイレの換気をし、汚物は早めに処理することを心がけている。また、季節感のある掲示や大人らしい雰囲気作りをし、メダカの飼育もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・僅かなスペースではあるが1人になれたり、気の合った利用者様同士が過ごせるような居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際や家族面会時に利用者様と相談しながら、使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地良く暮らせる工夫をしている。お仏壇やタンス、写真などを持ってこられた方もいる。	入居時に使い慣れた物を持ち込むことを説明し、居室には仏壇、筆筒、アルバム、手作り作品等がある。居心地よく過ごせるよう換気や室温にも配慮し、自室の掃除や花の水やりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・それぞれの方の生活歴や日々の暮らしの様子から、できる事やわかる力をできる限り活かし、維持したり安全に暮らせるような工夫をしている。 ・居室の名前、トイレ、台所等表示しわかりやすくしたり状態に応じ手すりを設置するなどしている。		